

## 山梨県若手研究者奨励事業費 研究成果概要書

所属機関 山梨英和大学職名・氏名 専任講師 大井奈美

## 1 研究テーマ

俳句の「配合」構造にたいするメディア変化の影響——発句からインターネット俳句まで

## 2 研究の目的

本研究の目的は、近世の発句から現代の「インターネット俳句」までを含む俳句作品を対象に、俳句の言語構造やリズムの特質の変遷について、メディアの変化に起因する認識枠組の更新という観点から考察することで、俳句史全体を再構成することである。俳句の言語構造は、基本的には、「配合」と呼ばれる作り方によるものである。俳人・藤田湘子が「二物衝撃」と換言したとおり、「配合」とは季語とその他の詩句とを組み合わせる手法を指す。もちろん、一つの季語（対象）のみを深く観察する「一物」という手法による作品もあるが、藤田の把握によると今日の俳句の九割以上が配合によって作られている。基本的には配合は、季語の伝統的な意味内容と、「や」「かな」などの切字の使用を前提としていることから、俳句の言語構造の要をなす手法と言ってよい。本研究では、俳句の歴史的展開・通史を、その詩的構造に着目して再検討するために、この配合概念に注目した三段階の研究作業を行う。

## 3 研究の方法

(1) 俳句の「配合」とその時間性をめぐるメディア論的起源——季語の伝統を中心とした作品構成

まず、俳句形式の歴史的なりたちを、メディアに注目してふりかえる。とりわけ、俳諧の連歌（連句）が書かれてきた懐紙形式の媒体や、木版印刷による出版技術などが、配合形式の成立に及ぼした影響を分析する。

(2) アナログ・メディア時代における俳句の「配合」の変化——リアルタイム性の前景化

写真や映画などの登場以降、「配合」をそれほど重視しない散文形式による作品が多数生みだされてきた。写真などのアナログ・メディアが、当代の俳人たちの認識枠組をいかに更新したのかについて、考察を加える。

(3) デジタル・メディア時代における（ネット）俳句の「配合」——時間のパラドキシカルな統合

最後に、情報メディアの登場によってメディア環境が激変するなか、現代の俳句の性質が機械的な情報処理枠組によっていかなる構造的・意味的影響を受けているのかという課題にとりくむ。その際、ツイッターで享受されている「ツイッター俳句」や、作句支援ソフトウ

## 留意事項

① 3枚程度で作成してください。

② 特許の出願中等の理由により、一定期間公表を見合わせる必要がある箇所がある場合であっても、所定の期日までに公表可能な範囲で作成・提出してください。当該箇所については、後日公表可能となった際に追記して再提出してください。

エアをつうじて作られた作品などについても、一般的な俳句作品との比較・検討を行う。

#### 4 研究の成果

##### (1) 俳句の「配合」とその時間性をめぐるメディア論的起源——季語の伝統を中心とした作品構成

ここでは、俳句における詩句の「配合」について、次の二点に注目して分析した。

###### ●セレンディピティ

セレンディピティとは、「意図せぬ偶然の出会い」を意味する言葉で、俳句の言葉の組み合わせや作句の際に注目されてきた概念である。俳句の素材となる対象との出会いや、詩句のひらめきに対して、意図的な言語操作のみが重要な役割を果たすわけではないのである。

###### ●俳句における恋の主題

芭蕉の時代から、俳句において恋というテーマは重要な位置付けを有してきた。それは、恋がセレンディピティの典型的な事例であるからだ。人に対する恋のみならず、物に対しても恋と呼べるような出会いと交流があり、それが作品に描かれてきた。そうした出会いは、俳句の「配合」構造を考えるうえで重要である。

##### (2) アナログ・メディア時代における俳句の「配合」の変化——リアルタイム性の前景化つぎに、俳句におけるリアルタイム性に注目しつつ、下記の二つの論点によって考察した。

###### ●共感と笑い

俳句の魅力である俳味には、ユーモアの要素も大きく関与していることが広く知られてきた。単なる挨拶という性質ばかりではなく、俳句を介して共に笑い、共感することは、俳句のいかなる構造によっているのか。さらには、俳句というテキストを介して、豊かなイメージが湧き上がることがあるが、そうした共感覚というべき俳句体験についても考察した。

###### ●俳句におけるエロティシズムの主題

ここでいうエロティシズムとは、人間同士の性的コミュニケーションのみを必ずしも意味していない。例えば蕪村の「稲妻や浪もて結へる秋津島」という作品が天地のまぐわいという観点から分析されることがあるように、二つの詩句で表される対象同士が自らの境界をこえて深く交流することについて、エロティシズムをめぐる先行研究をもとにして考察した。

##### (3) デジタル・メディア時代における（ネット）俳句の「配合」——時間のパラドキシカルな統合

#### 留意事項

- ① 3枚程度で作成してください。
- ② 特許の出願中等の理由により、一定期間公表を見合わせる必要がある箇所がある場合であっても、所定の期日までに公表可能な範囲で作成・提出してください。当該箇所については、後日公表可能となった際に追記して再提出してください。

最後に、俳句の「配合」構造が現代においていかに変化しているのかについて、以下の二つの論点を中心に考察した。

●失敗や欠点の肯定

インターネットを介して享受される俳句を、「マイクロ・ポエトリー」と呼ぶことがある。その名の通り、デジタル・メディア上の「短詩」である。そうしたマイクロ・ポエトリーにおいては、人生における失敗や人の欠点が主題とされることがとても多い。失敗や欠点という人間的な限界をあえて詠みこむことで、作品の読者に救いをもたらすような新たな傾向が見られることについて考察した。

●ケアと自己実現

現代でも、俳句は挨拶としての機能を有している。読者と作者とがそれぞれ、相手の立場に立って考える「ケア」という分析観点によって、俳句を通じた自己実現について考察する。その際、作品内において表現の観点の変更注目した。

## 5 今後の展望

半年の研究期間では、本研究を完遂することはできなかった。そのため、上記の(1)～(3)の各項目について、個別に論文を作成したり研究発表したりするなど、さらに研究を深めて全体として研究を完成させる必要がある。

また今後は、当初予定していたような、俳句をめぐる各種のメディアに注目するアプローチというよりむしろ、俳句の内容にテーマ別に即した作品内在的なアプローチを主に採用することで、俳句における郷土性にもいっそう注目したいと考えている。

## 6 研究成果の発信方法（予定を含む）

本研究については、主に書籍の形で成果を発表するつもりである。本研究は申請者の博士論文の内容を発展的に展開したものであるため、博士論文の内容にも関係付けつつ、本年度中に名古屋大学出版会から書籍を刊行する具体的な打ち合わせをすでに始めている。

その際、上記の六つの論点（「●」で示した論点）について、それぞれ論文化して、書籍の第1章から第6章までに対応させるつもりである。書籍はこれら各章と序文からなる構造を企画している。

論文を発表する学会としては、表象文化論学会と社会情報学会を主に考えている。なお、本研究のベースとなる「社会情報学の文化論的射程」をめぐる研究報告は、次号の社会情報学会誌に掲載予定である。

また、上記で「●失敗や欠点の肯定」として示した論点については、世界的に流行している「マイクロ・ポエトリー」を主な題材として取り上げるため、英語論文としてまとめているところである（『Constructivist Foundations』誌に寄稿予定）。

### 留意事項

- ① 3枚程度で作成してください。
- ② 特許の出願中等の理由により、一定期間公表を見合わせる必要がある箇所がある場合であっても、所定の期日までに公表可能な範囲で作成・提出してください。当該箇所については、後日公表可能となった際に追記して再提出してください。